

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価(案)

1 めざす学校像

- 「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育目標のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。
- 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように、思考力、判断力、表現力を育成する。
 - 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
 - 3 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
 - 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。
 - 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切にし、夢や希望を持って新しい社会を切り開く態度を育成する。

2 中期的目標

- 1 生涯にわたって学び続けられる基礎学力の定着と希望する進路実現**
- (1) 基礎学力の充実と ICT 等を活用し、効率よく効果的な授業を行う。
- ア 1 年時の国数英授業において、生徒の理解度や希望する進路に応じて少人数習熟度別授業を行って基礎学力の充実を図る。
- イ 教科・科目の特質等を踏まえた上で、1 人 1 台端末及びプロジェクター等、ICT を効果的に取り入れるとともに、生徒が協力して学び、成果をアウトプットできる授業を推進する。
- ※ 少人数授業アンケートの実施教科平均の肯定率 令和 10 年度 90%以上を維持 (R 5 : 93%, R 6 : 93%, R 7 : 93%)
- (2) 生徒が希望する進路の実現を図る。
- ア 一人ひとりの生徒が希望する進路を実現するために、進路指導部、担任団が緊密に連携し、きめ細かい指導を実践する。
- イ 将来に夢や志を持って自己の可能性を広げ、自らの職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育を行う。
- ※ 3 年生徒向け「自分の希望した進路への満足度」 令和 10 年度まで 90%台の維持 (R 5 : 98%, R 6 : 94% , R 7 : 95%)
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行うとともに、教員の授業力の向上、生徒の授業満足度の向上を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度 令和 10 年度 80% (R 5 : 79%, R 6 : 79% , R 7 : 77%)
- 2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成**
- (1) 社会人として通用する規範意識の定着を図るとともに、安全で安心な学校作りをめざす。
- ア 生徒の向上心と自己肯定感を育み、主体的に学校を良くしようとする意識を持たせる。
- ※生徒学校教育自己診断「学校は命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている」の肯定率を向上させる。(R 5 : 89% R 6 : 91% R 7 : 88%)
- イ 課題を抱える生徒について支援委員会を中心に指導方針を明示し、SC・SSW と連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し生徒を支援することで生徒が安心して学校生活を送れるようにする。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定率 令和 10 年度 72% (R 5 : 70%, R 6 : 69%, R 7 : 78%)
- (2) 特別活動等の活性化を図る。
- ア 生徒会行事、学年行事、部活動を活性化し学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるように支援する。
- イ 部活動、各種検定等の優秀者に対し、全校集会等の際に「守口東激励賞」を贈り、特別活動への参加や検定試験受験に向けたモチベーションアップにつなげる。
- ※ 部活動加入率 令和 10 年度 40% (R 4 : 27%, R 5 : 38%, R 6 : 38%, R 7 : 44%)
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「学校行事が楽しい」肯定率 令和 10 年度 85%以上を維持 (R 5 : 87%, R 6 : 85%, R 7 : 84%)
- (3) 「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を踏まえ、いじめを認知した際には「いじめは絶対に許さない」との強い決意のもと、迅速かつ適切に対応する。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 令和 10 年度 85%以上を維持 (R 5 : 86%, R 6 : 86%, R 7 : 83%)
- (4) 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、万全の防災体制を構築する。
- 3 地域に愛される魅力ある学校づくり**
- (1) 情報発信と外部組織との連携を図る。
- ア 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携等の機会を設定し、協働の意識を醸成する。
- イ Web ページ、SNS、メールマガジン等を充実させ、学校内の教育活動を内外に発信するとともに、中学生にとって入学したい学校となる。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断「HP やメールマガジンで学校の様子がよくわかる」肯定率 令和 10 年度 80% (R 5 : 76%, R 6 : 69%, R 7 : 68%)
- (2) 授業等を通した国際交流を行うとともに、自身のキャリアデザインを考え、グローバルに活躍できる人材を育成する。
- 4 働き方改革の推進と機能的な校内体制の整備**
- (1) 働き方改革の推進に全教職員で取り組む。
- ※ 教職員向け学校教育自己診断「働き方改革を進めよう」と意識している肯定率 令和 10 年度 80% (R 6 : 74%, R 7 : 78%)
- (2) 安全衛生委員会で得られた情報を提供し、教職員間の意思疎通を円滑にするとともに、働きやすい職場の実現をめざす。
- ※ ストレスチェック分析結果における「職場の総合健康リスク」ポイント (全国平均 100 で低い方が理想)
- 令和 10 年度教育庁全体平均ポイント以下を維持 (本校/教育庁全体 R 5 : 88/99, R 6 : 91/98, R 7 : 83/94)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 生涯にわたって学び続けられる基礎学力の定着と希望する進路実現	(1) 基礎学力の充実と ICT 活用授業 ア 少人数習熟度別授業の実施	(1) ア 1 年生国数英は少人数習熟度別授業を行い、個別最適な学びを意識して取り組む。	<学校教育自己診断は生診：生徒、保診：保護者、教診：教職員と略> (1) ア ・少人数授業アンケートの平均肯定率 90%以上を維持 93%[国 97%, 数 90%, 英 91%] ・ 1 年生から 2 年生への GTZ 上昇者が在籍数の 20% となることをめざす。(新規) イ 9 月には新しい教育課程完成させる。	
	イ 教科・科目の特質等を踏まえ、授業における ICT の効果的な活用	イ 昨年度から取り組んでいる教育課程の改訂を進め、令和 9 年度入学生に向けて完成させる。 ウ 各教員が教科・科目の特質等を踏まえた上で 1 人 1 台端末を効果的に活用した授業に取り組むとともに、事例の紹介、共有を行う。	ウ 1 人 1 台端末を活用した授業実施の教員を 80%以上にする。 [72%]	
	(2) 希望する進路の実現 ア 一人ひとりの生徒が希望する進路の実現	(2) ア ・進路の実現のために、前向きな姿勢で全教職員が全力で生徒をサポートする。 ・進学講習や面接練習、個別対応を継続的に行う。 ・各種検定試験について大学入試や就職試験の際の加点などのメリットについても説明し、受験を奨励する。また講習の実施、取得者の表彰を行い、自己肯定感を向上させ、将来の進路に生かせるようにする。	(2) ア ・3 年生診「自分の希望した進路に満足」 90%以上を維持 [95%] ・検定の受験者合計 150 人以上 [150 人(英検 16, 漢検 14, 情報検 70, ワープロ検 50)]	
	イ キャリア教育	イ ・進路ガイダンスを実施し、様々な進路について早い段階から考える機会を設ける。 ・高専大連携として出前授業を実施する。	イ 出前授業参加者人数を昨年度以上とする [77 名]	
2 多様な生き抜く力が激しい社会で	(3) 主体的・対話的で深い学びの実現、授業力	(3) 首席を中心に「授業見学週間」や「研修」を実施し、生徒の授業満足度を高められるよう、全教職員が授業改善に取り組む。	(3) 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度 80%以上 [77%]	
	(1) 規範意識の定着 ア 執行部の活動の活性化 イ SC・SSW 連携	(1) ア Safety bicycle 推進校として生徒主体の取組みを推進する。 イ 支援委員会を中心に SC・SSW と連携しながら、寄り添う姿勢を大切にする。	(1) ア 生徒会新聞の発行数を前年度より増加する。[5 回] イ 生診「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」肯定率 70%以上を維持[78%]	
	(2) 特別活動等の活性化 ア 各種行事や部活動の活性化 イ 特別活動や検定試験への参加促進	(2) ア 部活動体験や部活動を応援する発信をし、部活動の良さをアピールして、加入率を向上させる。 イ 終業式等の全校集会時に該当生徒に守口東激励賞を贈り、特別活動や検定試験への参加を奨励する。	(2) ア 部活動加入率を昨年度以上とする。[44%] イ 守口東激励賞賞状授与件数を昨年度以上とする。[105 件]	
	(3) 心の教育の実践 ア 他者理解や自分を大切にする心の教育 イ いじめへの迅速かつ適切な対応	(3) ア 人権 HR や各行事等を通して生徒が他者を理解し、思いやりの心を持つとともに、自らも大切にする心を育てる。 イ いじめを認知した際には、いじめられた生徒の立場に立って、迅速かつ適切に対応する。	(3) ア 生診「生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」肯定率 90%をめざす。 [88%] イ 生診「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 80%以上を維持[83%]	
	(4) 防災体制の構築	(4) 南海トラフ地震等の今後発生が予想される自然災害等に則した避難訓練（予告なしを含む）を実施する。	(4) 具体的な災害を想定した避難訓練 2 回[2 回]	

府立守口東高等学校

3 地域に愛される魅力ある学校づくり	（１）情報発信と外部組織との連携 ア 校種間交流や地域コミュニティとの連携 イ 情報の発信と、中学生の行きたい学校 （２）地域に愛され保護者に理解される学校 （３）国際交流の推進	（１） ア ・地元中学校への出前授業や中学校内説明会への参加を積極的に行う。 ・中学校等校種の違う学校の授業見学、交流を実施する。 イ ・Web ページをリニューアルし、見やすくわかりやすいホームページとし、本校の取組みや魅力、生徒の活動を発信し、ブログを含め記事を随時更新する。 ・学校説明会、オープンスクール等を参加者にとってわかりやすく、内容をしっかり伝え、満足度の高いものにする。 （２）地域との交流の機会をもち、保護者に理解される学校運営を行う。 （３）国際教育推進委員会において姉妹校交流を視野に入れた校内規定を策定し、姉妹校交流の機運を高める。授業等を通して、外国の方を本校に招いた直接的な交流を行う。	（１） ア ・出前授業、説明会 5 回以上 [5 回] ・中学校等の授業見学、交流を 3 回以上実施 [5 回] イ ・ Web ページ更新を昨年度以上とする。 [41 回] ・ 保診「Web ページやメルマガで学校の様子がよくわかる」肯定率 70%以上[68%] ・ 学校説明会等の参加者アンケート 4 段階評価のうち最上位の「よかった」の評価 90% 以上 [87%] （２） ・ 保診「守口東高校の校長、教職員は学校をより良くしようと頑張っている」肯定率 80%以上 [82%] （３）国際交流を 2 言語で計 2 種類以上行う。 [3 言語計 5 種類]	
	（１）働き方改革の推進 （２）働きやすい職場の実現	（１）働き方改革の推進として、業務の見直し、修正などの取組みを進める。 （２）校務の ICT 化を進め、効率的な学校運営をめざし、時間外在校時間を減少させる。	（１）教診「働き方改革を進めようと意識している」肯定率 80%以上とする。 [78%] ・ 年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。 [R 6 年度 1 名] ・年間の時間外在校等時間 360 時間以上の教員を昨年度より減らす。 [R 6 年度 12 名] （２）ストレスチェック「職場の総合健康リスク」教育庁全体平均ポイント以下を維持 [83 ポイント/教育庁全体 94 ポイント]	